

令和7年度第1回（第9期第5回）武蔵野市廃棄物に関する市民会議要録

【日 時】令和7年8月27日（水） 午後6時～8時

【場 所】武蔵野クリーンセンター管理棟2階見学者ホール

【出席委員】山谷修作（委員長）、坂井健司、加藤慎次郎、濱中洋平、後藤順一、
古林和佳子、平井真砂郎、関口道美

【事務局】ごみ総合対策課長 ほか

【欠 席】月川光子

【傍 聴】0名

【配布資料】

＜資料＞

資料1 令和6年度取組の実施状況報告について

資料2 令和7年度事業概要-廃棄物の抑制・再利用と適正処理（統計：令和6年度実績）-速報版

資料3 令和7年8月20日厚生委員会行政報告資料

資料4 想定するプラスチックの分別変更と関連する変化

資料5 想定する環境負荷低減効果

資料6 第9期武蔵野市廃棄物に関する市民会議一覧（令和7年8月27日現在）

＜参考資料＞

参考資料1 リチウムイオン電池適正排出啓発事業における啓発セット及び効果検証ほか

参考資料2 ごみニュースVol.33、34

参考資料3 令和6年9月15日市報12面

1 開会

【事務局】本日の出席状況及び配布資料の説明。

【A 委員】新任のご挨拶。

【委員長】開会を宣言。

2 議題

(1) 令和6年度取組の実施状況報告について

【委員長】説明をお願いします。

【事務局】資料の説明。

【委員長】事務局の説明に質問はあるか。

【B 委員】集団回収のあり方については以前から検討されていたようだが、現状通り行政収集と併存の体制という認識でよいか。高齢化により継続が困難な事例もあるのではないか。

【事務局】集団回収の登録団体は微減という状況である。近隣で集まった団体やマ

ンションの管理組合などが登録をしている。これまでの動きとしては、令和3年度に集団回収の団体補助金の減額及び事務費補助の廃止を行い、近隣自治体並みの水準とした。二重収集体制に対する検討も行っているが、一団体が集団回収に一本化したところで大きな効率化につながりにくく、「現状維持」という一定の結論に達したところである。地域コミュニティの観点からも、併存体制の継続を考えている。

【委員長】資料2の81頁に集団回収量の内訳がある。昔は新聞の回収量が1番多かったが、購読数の減少のためか昨年度は4割近くが雑誌である。段ボールは減少しておらず、インターネットで商品を購入する人が多いからではないか。

【C委員】資料1の5(2)について。今まではクリーンセンターで発電した電力は近辺のみで使っていたが、昨年度からは市内すべての小中学校に送るようになったという認識でよいか。そうであるならば、今まではかなりの量の電力が余っていて、それを売っていたが、市内で活用するという方針になったということなのか。

【事務局】昨年度以前から自己託送による電力供給は行っている。バーチャルで電力を送るのだが、実際に使う量を計画通りに送らないと罰金がかかってしまうほどシビアであり、計画を立てるのが非常に困難である。各学校の電気使用量やクリーンセンターの発電量などをしっかりと調整し、実施することとなった。

【C委員】電力の使用は気温などに左右されるため、なかなか計画通りにはいかないのではないかと。地産地消で使い切ることは良いことだと思うので、今後も推進することを希望する。

【事務局】以前は60%台後半ほどの電力を地産地消していた。現在自己託送による電力供給や蓄電池の設置により70%台後半まで高まってきている。理想は100%だが、クリーンセンターは24時間発電している半面、市役所等では夜間に電力を使わないため、実現は困難である。

【B委員】危険・有害ごみ袋の認知度について。所属団体にて実施しているイベント等で啓発をしているが、認知度の低さが心配であると団体員との話題にのぼっている。危険・有害ごみ袋を配布した市民はすごく喜んでくれた。今では多くの小型家電にリチウムイオン電池が使用されており、電車の車内で発煙するなどの事故もあるため、全く関心がない市民も対象とし、さらなる啓発の強化を希望する。

【事務局】危険・有害ごみ袋は20年以上頒布しているが、いまだに存在感が確立できていない。昨年度はイトーヨーカドー武蔵境店にて期間限定で頒布を行った。今まで存在をご存じなかった方が一気に持って行ってためか、約1か月で約2,000枚の頒布という結果であり、我々としては非常に大量という感覚である。店舗のある武蔵境地区の住民の方々への認知は進

んだのではないか。昨年度実施したリチウムイオン電池適正排出啓発事業（「不燃ではない！充電式の電子機器」チラシと危険・有害ごみ袋2枚の全戸配布）は、とにかく印象に残るデザインとたとえチラシは捨てられてしまっても危険・有害ごみ袋だけは活用してもらえるようにという意図をもって実施した。武蔵野市立第四小学校の5年生のクラスにおいて出前授業事業として12月に伺った際に、このチラシを見ましたかと聞いたところ、約2割の児童が挙手をした。保護者であればその倍くらいは目にしたのではないかと推測する。危険・有害ごみの月別収集量の推移を見ても、一定の効果が出たといえるのではないか。

さらに、今年の酷暑の影響か、現在リチウムイオン電池に関する問い合わせが急増しており、図らずも周知につながっている。今後も啓発のあり方を検討していきたい。

【委員長】この危険・有害ごみ袋は、啓発ツールとしては非常に優秀と考える。場所を取らないのがよい。本日午前中に、都心の某区の審議会に出ていたが、そこでもリチウムイオン電池対策が議題にのぼっていた。この袋を使ったらよいのではと感じた。武蔵野市では、「『危険・』有害ごみ」という名称でリチウムイオン電池のように危険なものも収集を行っているが、特別区ではこのような制度はない。例えば文京区では回収窓口を設置しているが区内に2か所しかなく、清掃事務所の場所すら知らない区民が多いと考える。区立図書館などに設置すれば持っていくやすいのではないか。特別区の不燃処理施設は埋立地にあるが、民間の事業者の方が高精度のリサイクルを実施しているため、そちらに持っていくようだ。仮にボヤ騒ぎが起きた場合、収集車内で起これば報道されるが、民間企業内で起きた場合にはニュースに出てこないこともあるのではないかと考える。

【B 委員】所属団体の研修で、町田市バイオエネルギーセンターに行った。楽しみにしてたのだが、火災の影響で見学ができなかった。町田市では、小型充電式電池が取り外せない小型家電は収集しておらず、武蔵野市において何十年も前から収集体制を構築していることは、評価される点であると考え。

【委員長】ほかに意見はあるか。特に無いようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

(2) 今後のプラスチック施策について

【委員長】説明をお願いします。説明後は、事務局の要望により、委員全員から意見を伺う。

【事務局】資料の説明。

【委員長】事務局の説明に意見・質問はあるか。

【D 委員】資料4について。燃やすごみと燃やさないごみからは、合計で約5%減かと思うが、「プラスチック資源物（仮称）」が25.5%増になるのはなぜか。

【事務局】分母の数値が異なるためである。燃やすごみの収集量が年間約2万トンに対し、プラスチック製容器包装は約2,300トンである。重量ベースで考えると割合の数値に差が出てしまう。

【E 委員】分別を変更することによる市民のメリットとしては、どのようなものがあるか。

【事務局】当課では大体1日に平均150から170件ほどのお問合せのお電話をいただくが、約半数がごみの分別に関する事項であり、そのなかでもメジャーなのが製品プラスチックとプラスチック製容器包装の違いである。「プラスチック資源物（仮称）」の分別区分ができることで、「プラスチックはプラスチックとして出す」というわかりやすさにつながるのではないかと考える。

【委員長】「プラスチック資源物（仮称）」を市指定の有料ごみ処理袋で排出するかどうかが一番重要と考える。仮に無料の場合、今までは燃やすごみとして有料で出していたかさばる製品プラスチックが無料になるので、経済的負担は軽くなるといえる。有料とする場合でも、可燃ごみとプラスチック資源とで設定価格に差をつける手もあるが、小金井市及び日野市では同額となっている。これらの市での分別区分の名称は「プラスチックごみ」（左記は小金井市の名称。日野市では「プラスチック類ごみ」）であり、資源化しているが「ごみ」としている。これらの分別区分を導入する前の分別方法と比較すれば、市民の経済的負担としては変わってはいないといえる。

別の事例も挙げる。国分寺市では、従来「容器包装プラスチック」を無料で収集し、製品プラスチックは「もやせないごみ」として有料で収集していた。分別を変更して「資源プラスチック」を導入した際、「もやせないごみ」の半額の指定有料ごみ処理袋を導入した。

武蔵野市の方針をどのようにするのか検討する必要があると考える。製作費のことを考えると有料といえるのかという感じではあるが、有料化する場合には条例改正を行うこととなる。このあたりの検討を進めていくべきである。

【B 委員】資料4を見る限り、カセットテープとビデオテープは「プラスチック資源物（仮称）」に該当しないということか。

【事務局】環境省の手引きによると、それらが入ってるケースは該当だが、本体は該当しない。ちょっとした金具程度のものでも含まれていたら対象外とする想定のため、今回の案では外されている。

【F 委員】ビデオテープは、内部に金属製のバネが使用されているためである。

- 【事務局】たとえばボールペンもバネが入っている。そのまま捨てるのであれば対象だが、分解すれば対象となる。
- 【B 委員】市民の混乱を招かぬよう、啓発を徹底してほしい。
- 【委員長】それでは、事務局の要望のとおり委員全員の意見を伺っていく。
- 【D 委員】毎週収集化は個人としては賛成。環境負荷の低減について、数値で効果が見えるか怪しいが、啓発という面においてマイボトルの普及や量り売りなど、商業者として何ができるか今後検討していく。このような啓発事業に対して、事業者にもメリットがある仕組みづくりをしてほしい。
- 【G 委員】「プラスチック資源物（仮称）」を有料化するか否かという話があった。無料にするならば収集量が見込めると思うが、有料化するのであれば見込みが見えづらくなるのではないかと。半額といえども有料となると効果が薄れるのではないかと考える。
- 【E 委員】ペットボトルを毎週収集にすることで、事業所での拠点回収量は減少するのではないかと。市民の利便性の向上から見るとよいと思う。環境負荷の低減については、（市と事業所が）一緒に進めていければよいと思う。
- 【C 委員】有料化の話は検討を進めてほしい。別の課題として、製品プラスチックを容器包装リサイクル法のルートに乗せることについて、再商品化事業者等との話の折り合いはついているのか。受取拒否となった場合にはまた分別区分変更の必要が出てしまうと思うので、心配である。また、市民のために、分別方法が分かる資料を用意する必要があると考える。その際には、「汚れがとれないプラスチック」に関する判断基準についても示してほしい。
- 【A 委員】今回から初めて委員として参加したので今一度経緯を確認したい。ペットボトル毎週収集は市長の公約とのことだが、収集量の推移からして毎週化はやむないということでのよいのか。
- 【事務局】平成の時代は、資源物は週1回の収集であった。平成の後半頃から、一部資源物において収集量の減少がみられたため収集頻度に関する検討をすることになり、併せて収集の平準化の問題も検討を行った。収集の平準化とは、曜日によってごみ収集車の配車台数に大きな差があるのを平準化するということである。これらについて検討を重ね、令和元年度より、収集頻度については資源物の一部について隔週にすることとなった。しかし、検討及び頻度変更から5年以上が経った現在、収集頻度を隔週とした資源物はほとんど収集量が減少しているなかで、唯一ペットボトルが増加傾向であった。原因としては、流通量の増加と考えている。もともとびんで売られていた調味料の容器がペットボトルに変更していることなどが具体例の一つとして挙げられる。このようななかで市長が公約として掲げたことを受け、昨年度から検討を始め、市民会議にていた

だいたご意見を市長に報告したうえで市長に施策方針を決定してもらい、このたび8月に委員会で報告をしたという経緯である。

【A 委 員】市民からの要望があつてという理解でよいか。

【事 務 局】お見込みのとおりである。

【A 委 員】理解した。加えて、資源化する際の技術面や、有料化する場合は袋の製造などに関しても検討を重ねる必要があるのではないかと考える。

【委 員 長】市指定の有料ごみ処理袋を製造するとなった場合には、デザインとしては透明度の高いものになると思われる。

【A 委 員】また、分別不適物への対応方法などへの検討も必要だと思う。いずれにしてもプラスチックの資源化が推進されるのは、有意義であると考ええる。

【B 委 員】流通量の増加に伴いペットボトルの収集量は増えてしまうのは仕方ないと思う。とはいえ平成28年からの検討や令和元年度からの収集頻度変更の経緯を考えると、毎週収集化に言いたいことはあるが、もうここでは述べないこととする。

話は変わるが、資料5に市指定有料ごみ処理袋へバイオマスプラスチック導入とあるが、目標値などがあったら教えてほしい。

【事 務 局】バイオプラスチック類製品の普及を推進することは、「武蔵野市一般廃棄物処理基本計画」のなかでも施策の方針として掲げている。また、CO₂の排出量の目標に関しては、環境政策課が主管の「武蔵野市地球温暖化対策実行計画」において、廃プラスチック焼却対策における数値の目標を設定している。

【B 委 員】やらないよりはやった方がよいのだから頑張ってやっていきましょう。令和7年度の7月からペットボトルの毎週収集化を予定し、令和8年度からは「プラスチック資源物（仮称）」の分別区分導入予定とのことだが、啓発戦略はどうか。「ごみ便利帳」は全戸配布するのか。また、ペットボトル毎週収集化開始は年度途中であり、「ごみと資源の収集カレンダー」のなかでもしっかりと説明をしないと混乱を招きそうなので上手に広報してほしい。「武蔵野ごみニュース」も全戸配布しているが本当に見ているのか。

【事 務 局】毎年全戸配布を行っている「ごみと資源の収集カレンダー」に加えて、お見込みのとおり「ごみ便利帳」についても、制度変更に伴い全戸配布を行う予定である。ご意見のとおり、混乱は一定程度生じると思うので、効果的な啓発方法を考える。「武蔵野ごみニュース」についても試行錯誤中であるが、こういった形が最も市民の方々の理解を得やすいかというのは、引き続き日々の業務をしながら研究を続けていきたい。

【F 委 員】ペットボトルの毎週収集化と併せて環境負荷低減策を行うということで、先日議会に報告した。この件については、適時適切な市民周知を図りたい。また、今日議題に上がった製品プラスチックについては、武蔵野市

に長く住んでいる市民やご高齢の方にとっては大変な混乱を招くものだと考えている。先ほどボールペンの例があったが、それでは蛍光ペンはどうなのか等細かいところまで考える必要がある。さらに、プラスチック製容器包装については、容器包装リサイクル協会から一定のお金が出るが、製品プラについては自治体負担になる。その辺も考えながらいろいろなご意見をいただきたいので、引き続きのご協力をお願いする。

【委員長】ごみの有料化に関する調査などを行っているが、基本的には袋の中身が見えることが大事だと思っており、その意味では指定袋化したほうが良いと考えている。指定化を導入することで「ごみの見える化」ができ、適正排出の指導がしやすくなる。なお、市に純収入が入ってくるというメリットが生まれる場合と、そうでない場合があると思う。手数料が袋の原価程度という場合もある。例えば、多摩市や西東京市のプラスチック用の袋はずいぶん安いと感じる。また、文京区では今年度の4月からプラスチックの分別回収が始まった。近辺を歩く機会が多いので排出状況を目にすることが多いのだが、想像以上に区民が分別に協力していて、排出マナーが非常に良いというのが私の実感である。特別区は可燃ごみが有料ではないので分別に対するインセンティブがないが、それでも多くの区民がプラスチックの分別収集に協力していることは大したものだと思う。

話は変わるが、私は埼玉県在住で新聞を取っているのだが、私のところに届く新聞は天気にかかわらず朝刊も夕刊もプラスチックの袋で梱包された状態で届く。袋は畳んで保管しており、ごみ出しに使ったり、かばんの中に入れておいて濡れた折り畳み傘をしまうのに活用したりしているが、皆さんに差し上げたいくらいものすごい量であり、非常に良くないことだと考えている。

ということで、委員の皆さんのご意見を伺ったが、やはり課題の一つは有料化の検討ではないかと思う。

ほかに質問や意見はあるか。特にないようなので次に進む。

【全委員】異議なし。

5 閉 会

【委員長】最後に何か全体を通して意見はあるか。

【B委員】プラスチック製容器包装の中間処理を行っている加藤商事の見学会等をしたらどうか？

【G委員】見学は受け入れている。また、先ほどの委員長のお話を聞いて、最近は海洋プラやSDGsなどの影響で市民の関心は高まっており、そのことがプラスチックの排出マナーの良さにつながっているのではないかと感じた。

【委 員 長】特別区では、ステーション回収をしているので、プラスチック類は風に飛ばされやすいというデメリットがある。武蔵野市は戸別収集なので、風に飛ばされないような対策をしてもらえるよう案内してほしい。

【事 務 局】次回会議は11月5日（水）を予定している。

【委 員 長】以上で本日のごみ市民会議を終了する。